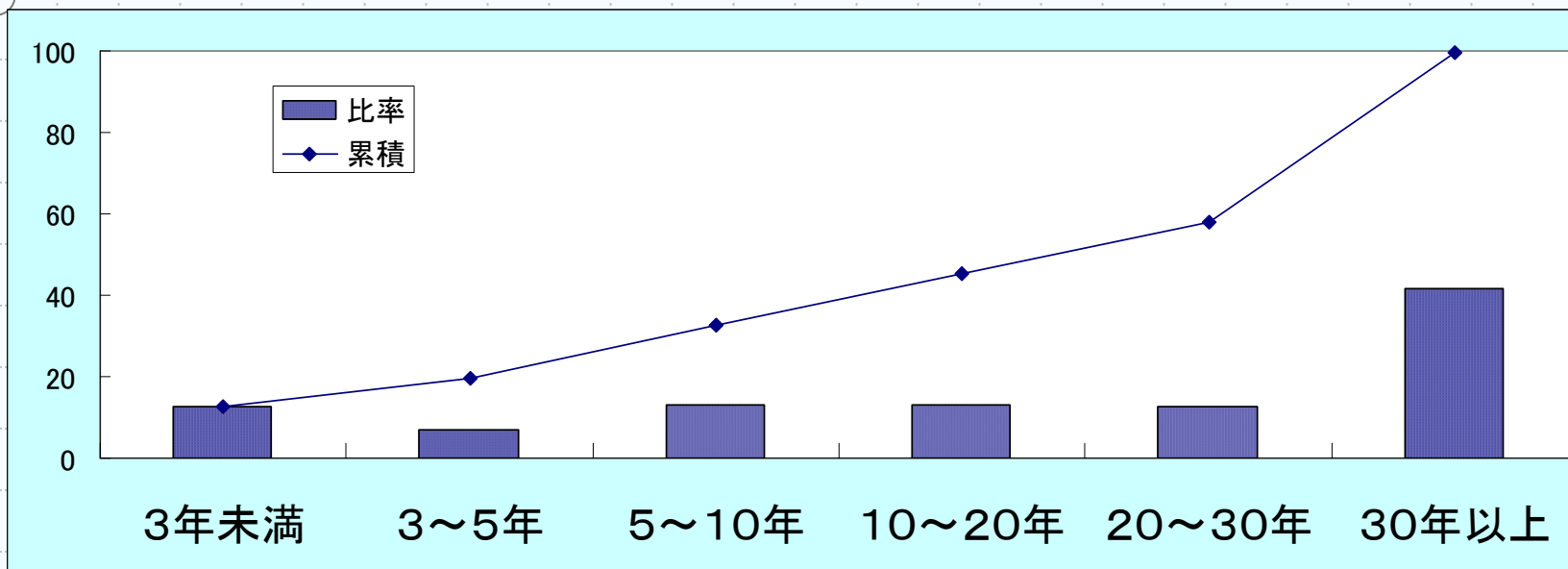


平成17年神田川流域豪雨調査速報

- ◆ 調査主体：東京大学廣井研究室
東洋大学田中研究室
国土交通省
東京都
- ◆ 対象者：善福寺川・妙正寺川流域
- ◆ 面接法
- ◆ 回収数；797票
- ◆ 善福寺＝300／妙正寺＝323／
＋平成5年被災地＝110

平成5年水害を知らない居住歴10年未満が33%。1階平屋は3%。



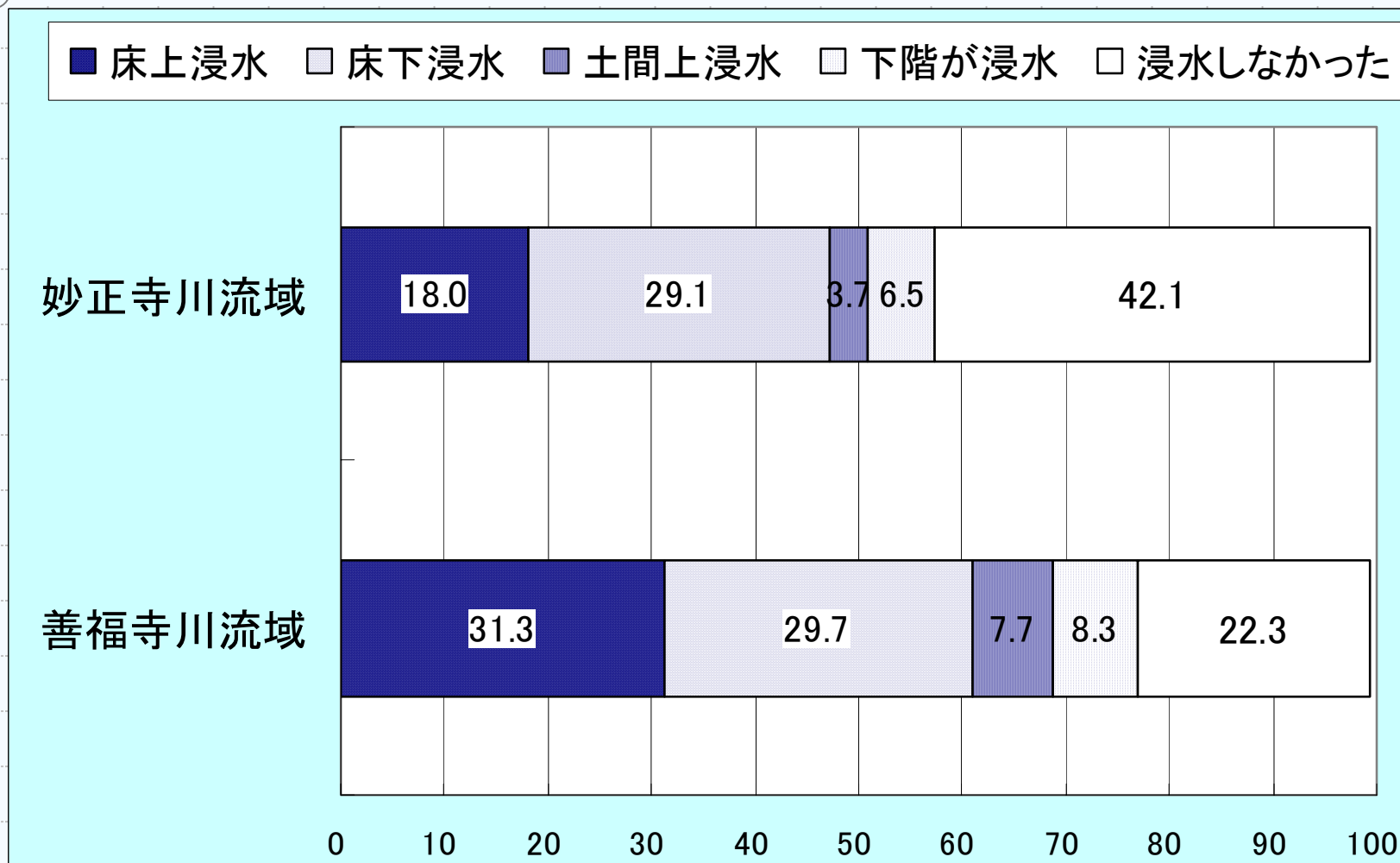
一戸建て = 77%

(1階建て=3%/2階建て=79%/3階以上=13%)

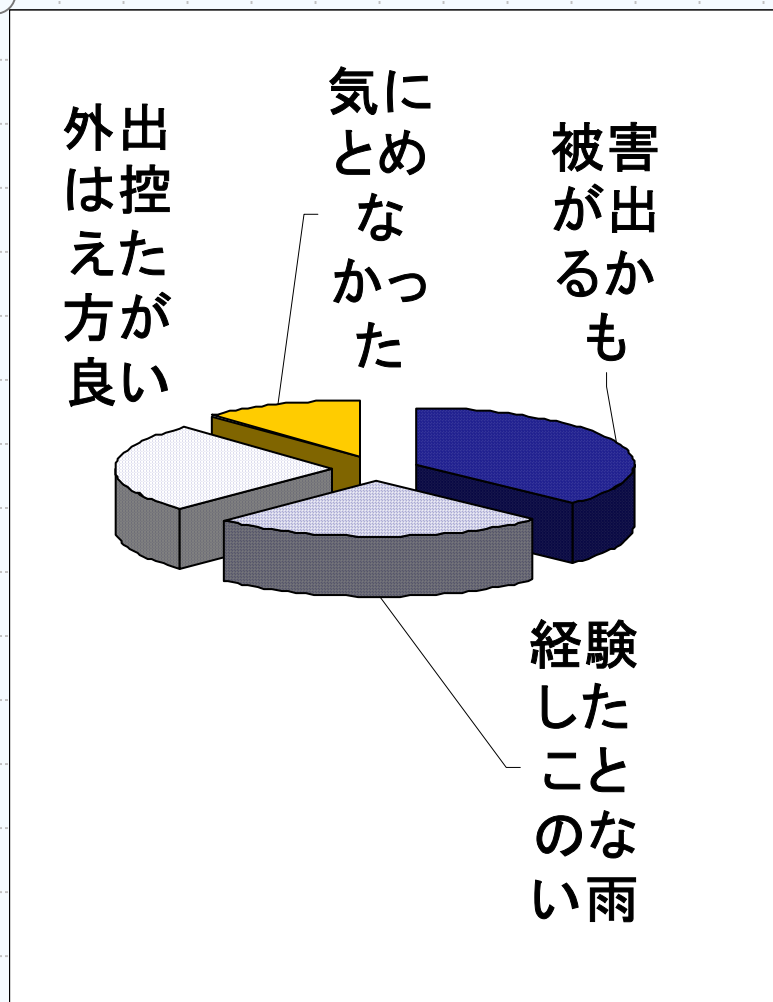
アパート・マンション=23%

(1階=28%/2階=41%/3階以上=28%)

床上浸水は、善福寺川流域で31%、妙正寺川流域で18%。

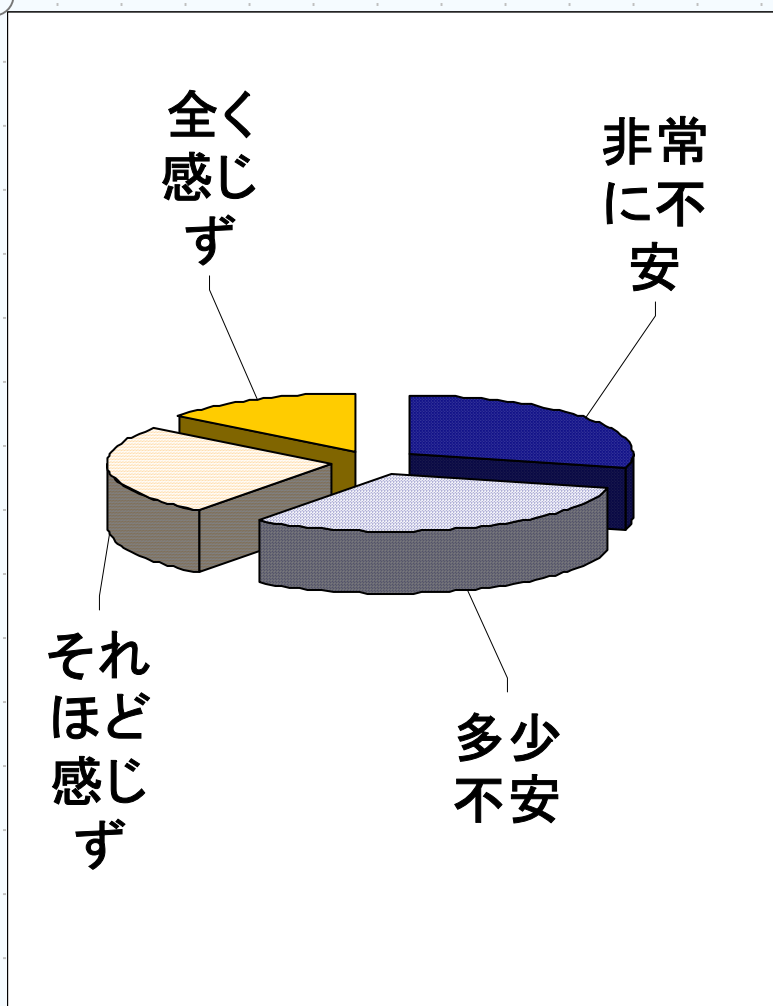


雨の強さに9割以上が気づき、48%が被害を心配していた



- ・大雨警報・洪水警報
=43.5%が聴取
- ・川の増水サイレン
=49.8%が気がついた
- ・強い雨
=92.6%が気がついた
=48%が被害を心配(左図)

54%が、川が溢れるとは思っていない。 しかし、自宅の被害を59%が不安



川が溢れるとは思わなかった=53.7%

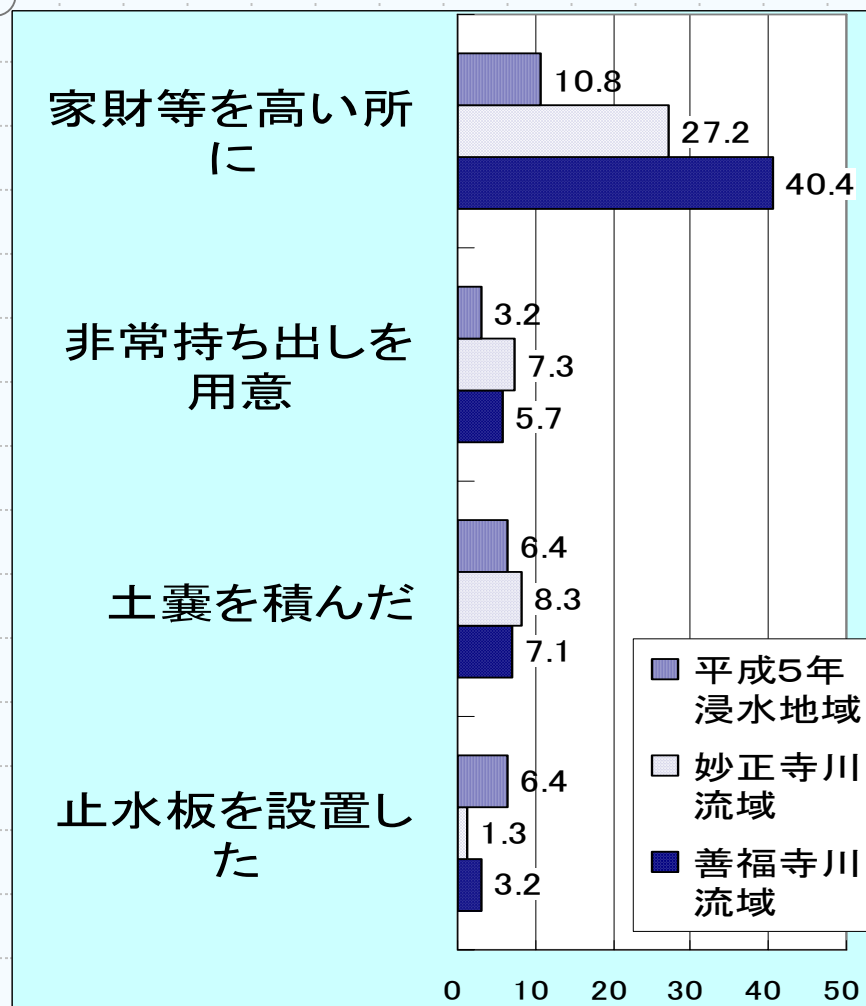
整備がされているので心配はない=34.8%

水害を経験したことがなかった=34.5

この程度の雨はこれまでもあった=32.4%

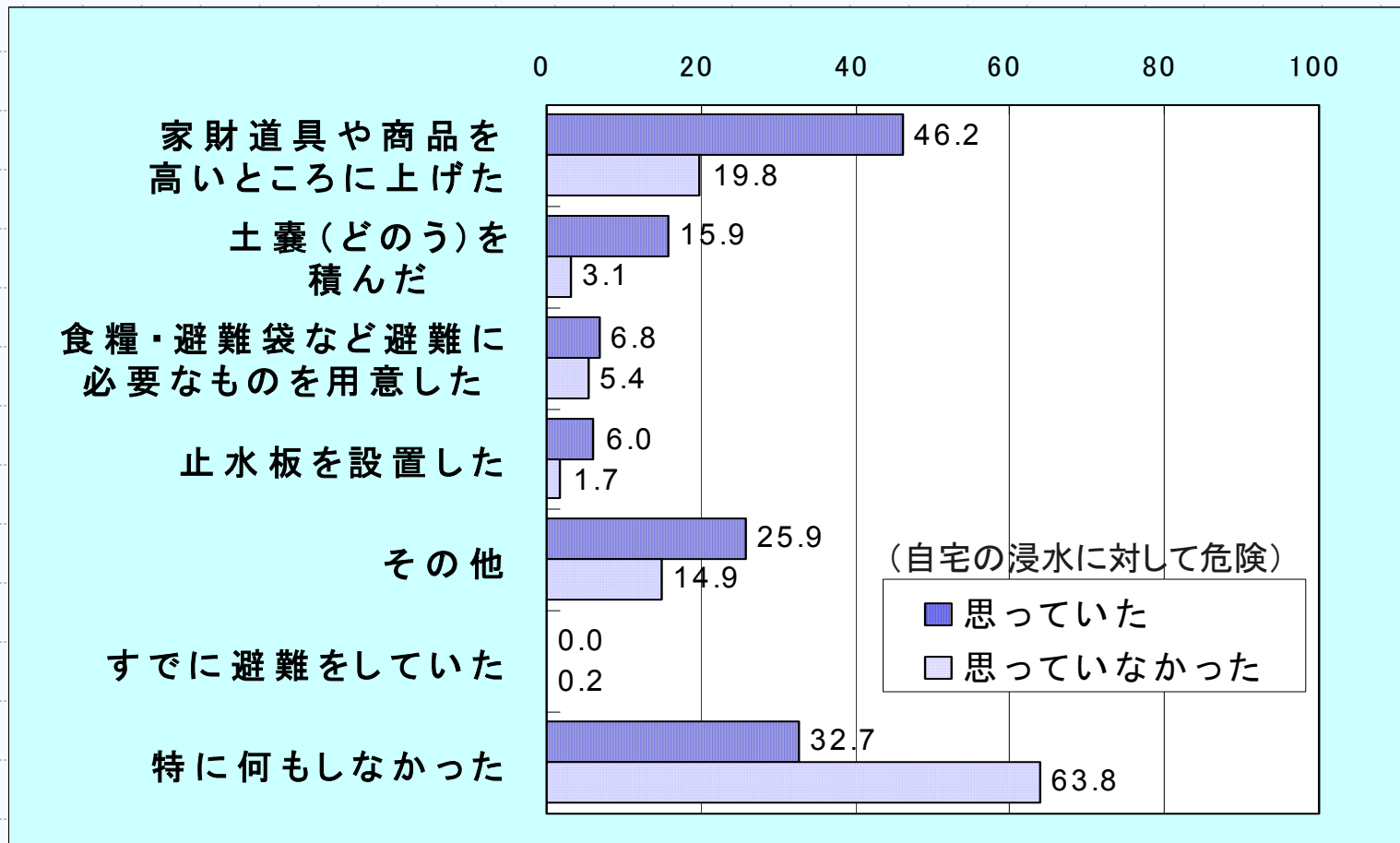
そのうち雨が止むだろうと思った=26.0%

53%が何もしていないが、善福寺では 40%が家財の保全

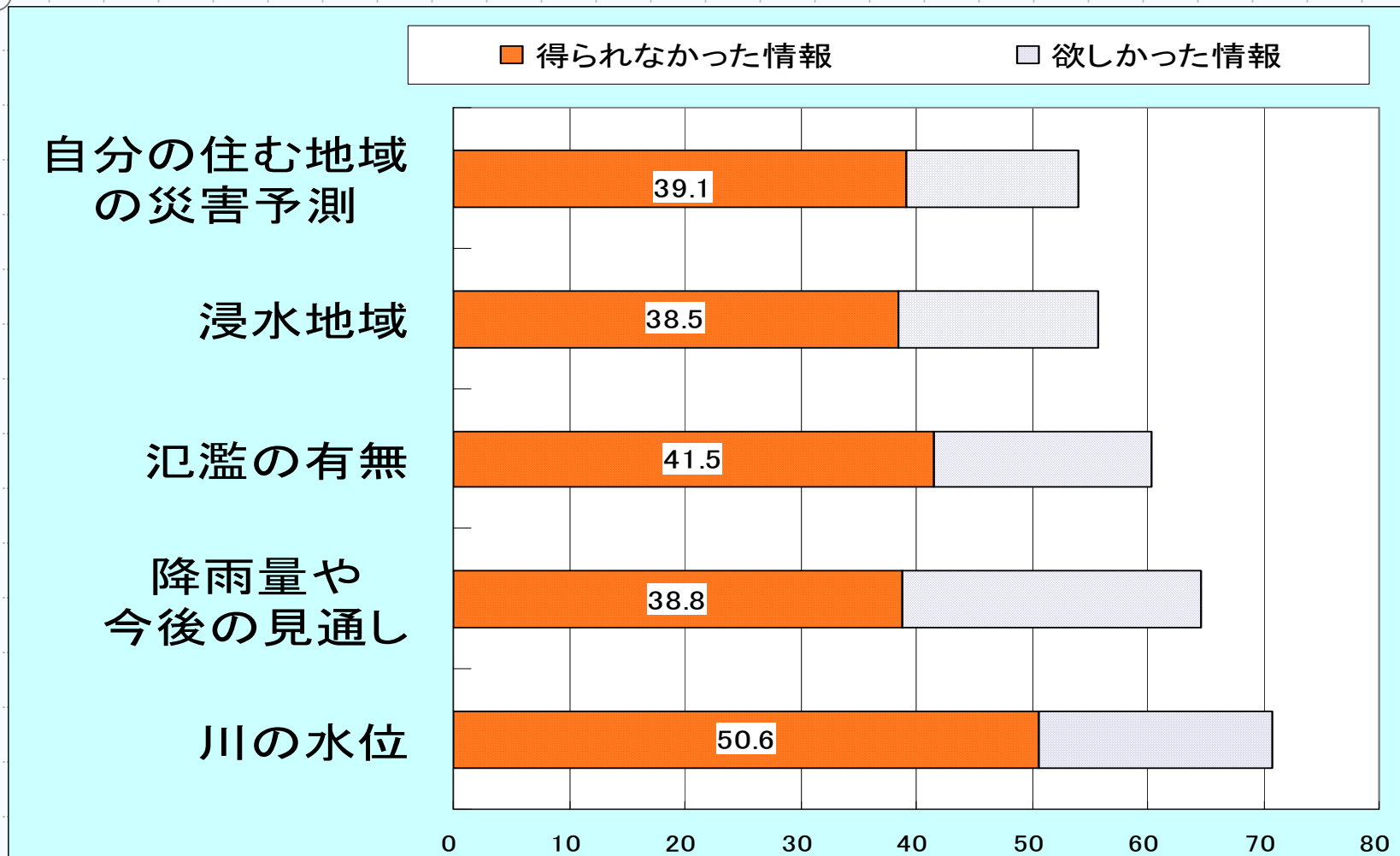


- ・しかし29%が家財を高いところに上げた。
- ・88%が避難をせず、その8割は避難を考えもしていない。
- ・30%が避難勧告が出なかったので対応に困っている。

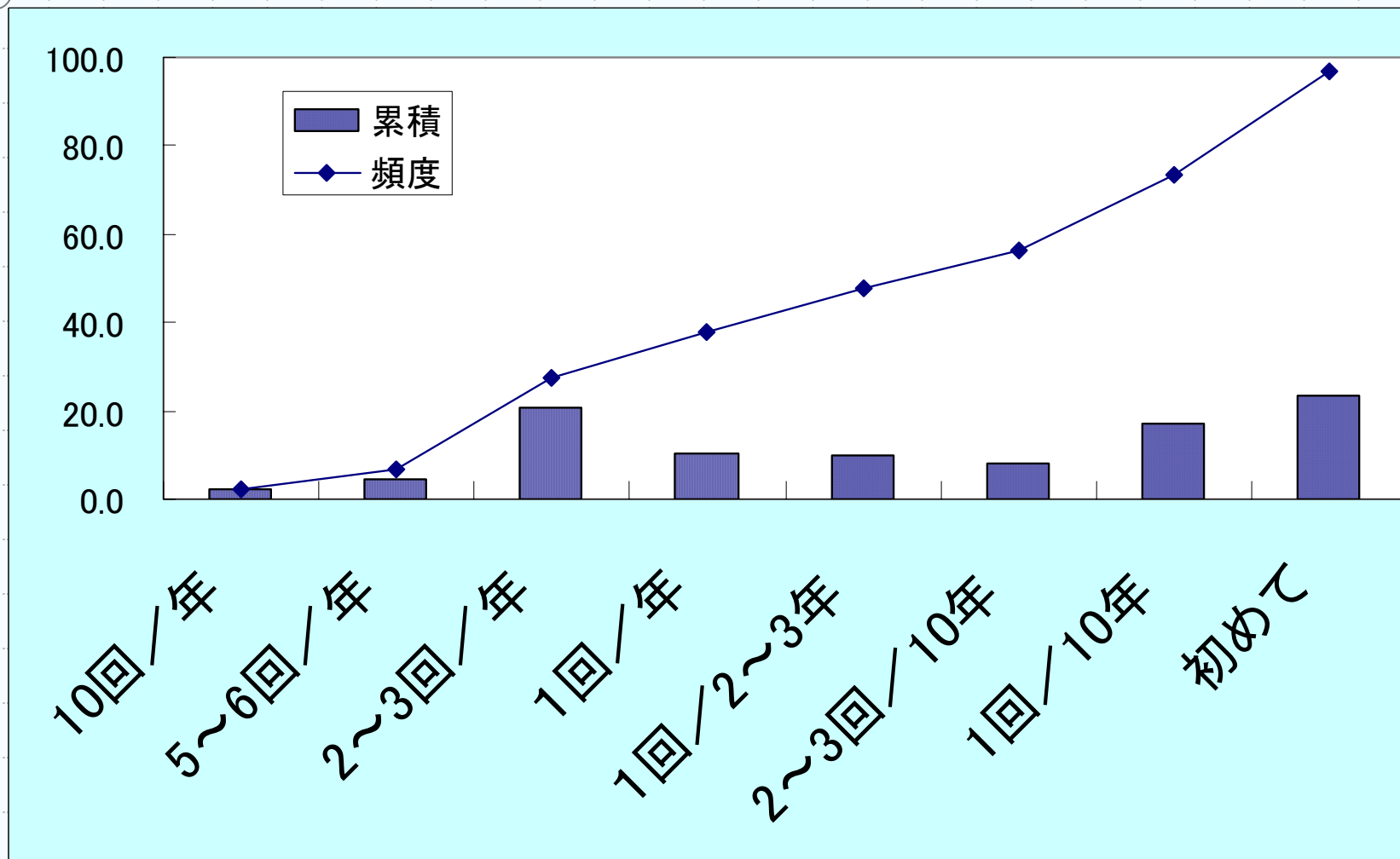
日頃からの浸水危険性の認識が実際の対応にも影響



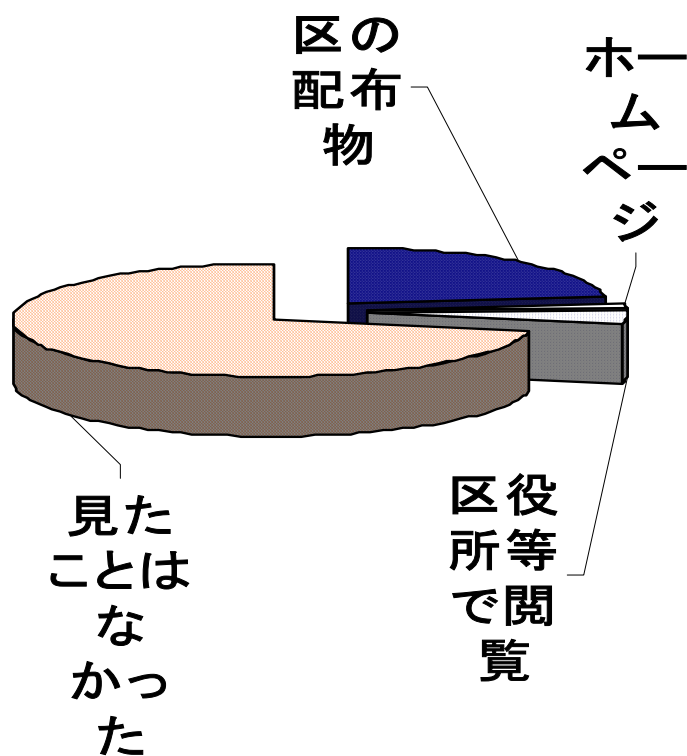
水位や氾濫の有無について、知りたかったが、情報は得られなかった



28%が時間雨量と累積雨量を区別。 時間雨量100mmは年数回と1/3が認知



7割がハザードマップを見ていない。
48%がもっと広報すべきと回答。

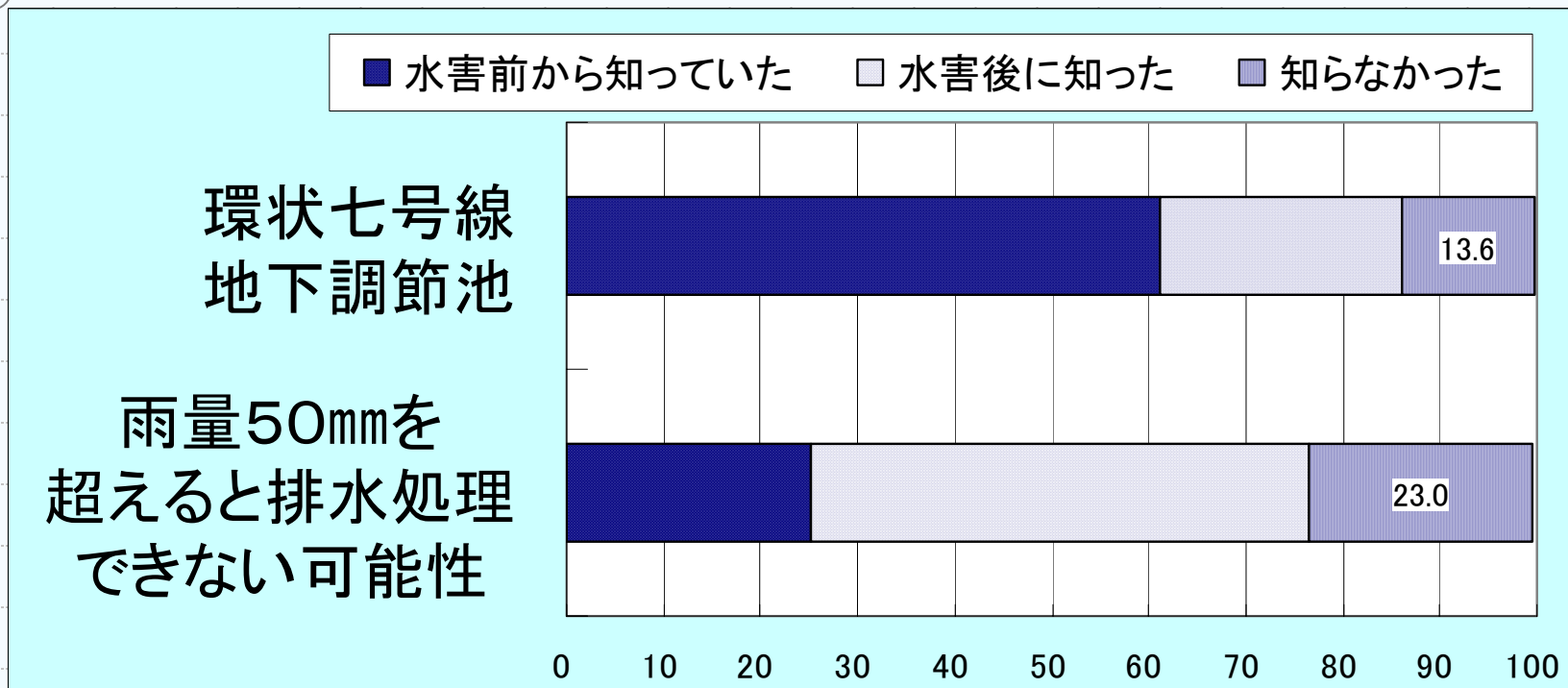


・ハザードマップを見たことがない人は、72%。

・しかし、見た人の52%は「自分の家が安全かどうか確認」できた。26%は「水害についての知識」を得られた。

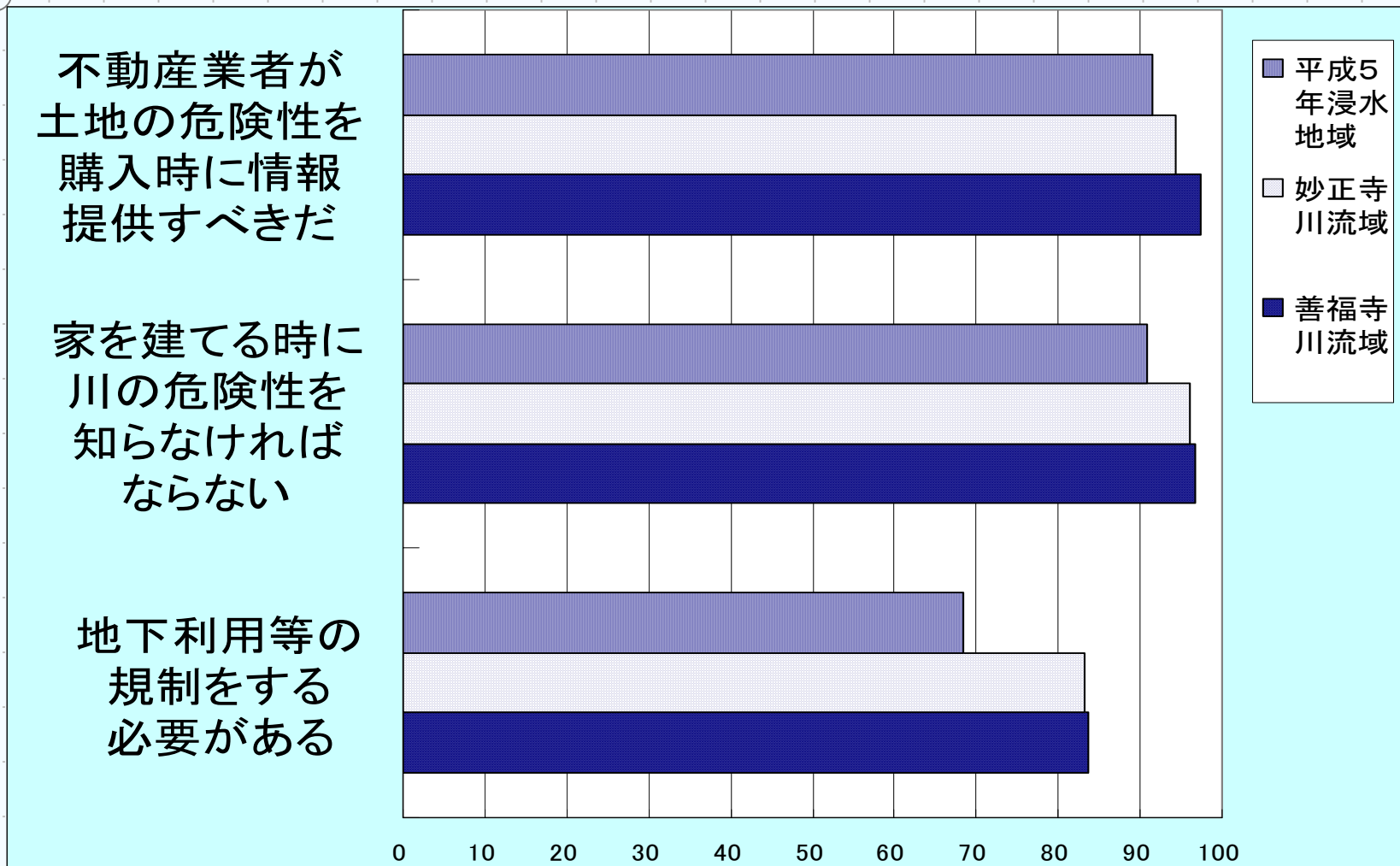
・水害時に見た人は4%

対策基準50mmは3/4が知らない。 調節池の効果も過剰期待



42%が、地下調節池の整備で「氾濫しなくなる」と思っていた。

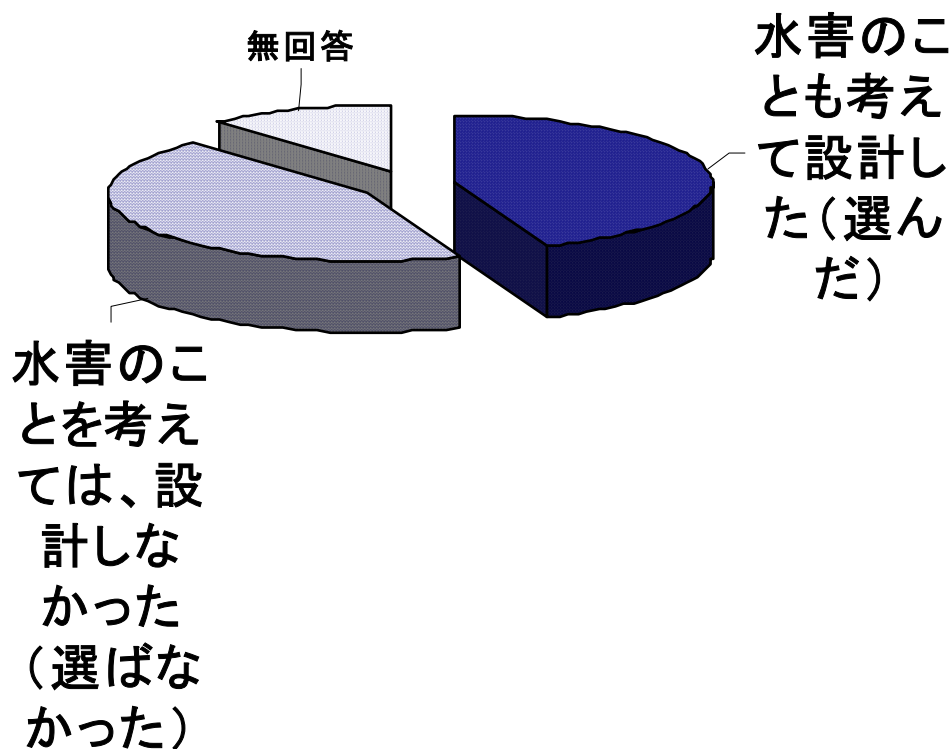
被災体験地だからか、立地規制等の 対策を積極的に支持



施設整備に加えて、危険性を伝える情報を求めている。

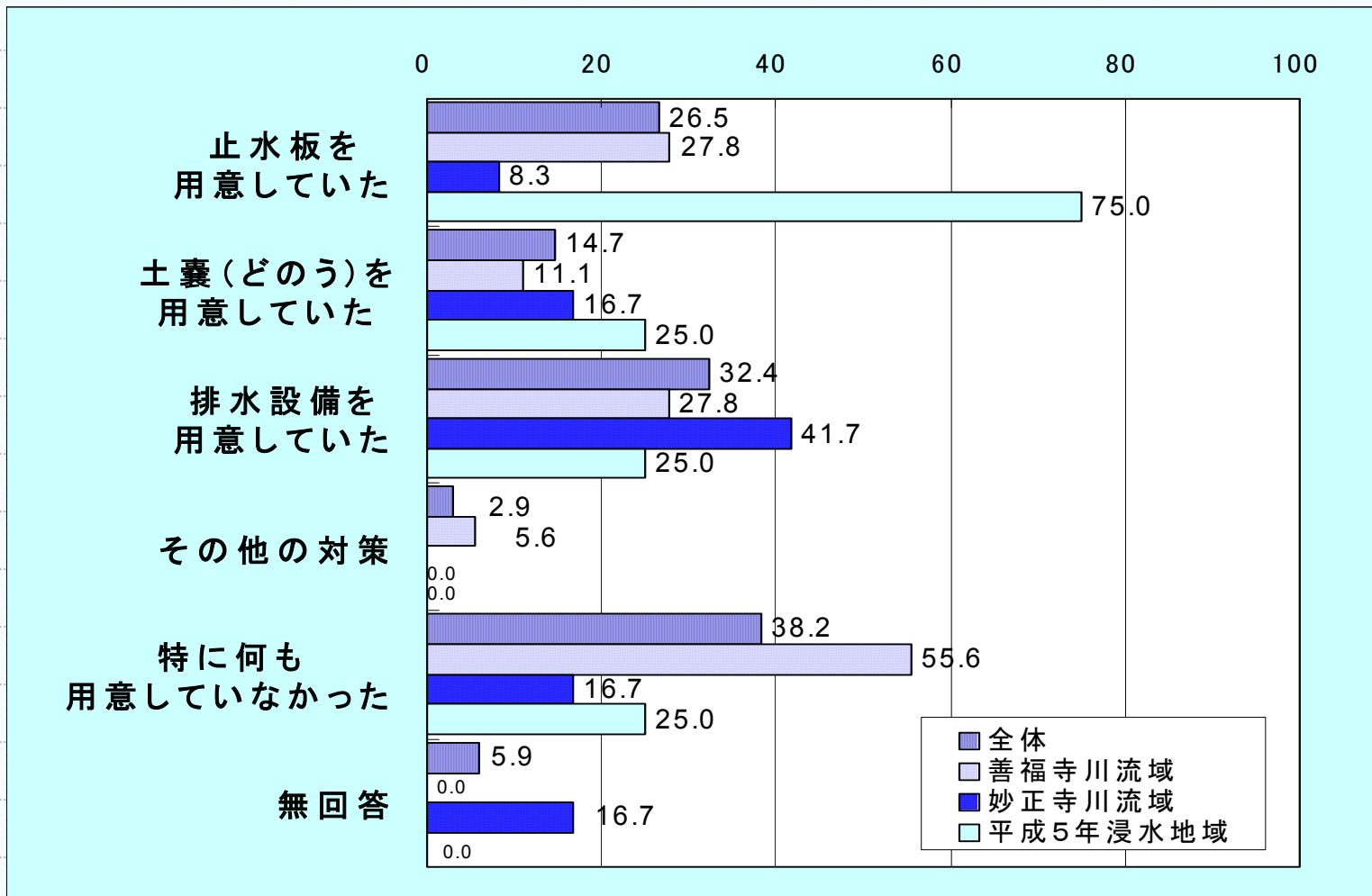
	今回	新潟
河川の堤防の改修や整備	72%	81%
避難勧告の自動基準の設定	44%	39%
気象情報の充実	40%	18%
ハザードマップの配付	32%	32%
水害用の避難場所の指定	32%	26%

半地下建築物の4割以上が水害のことは考えて設計(選択)していない。



対象調査数34票

半地下建築物の約4割が対策を実施していない。



対象調査数34票